

第11回 体験科学講座～女子高生特別コース～(生物生産部編)

平成26年3月1日（土）、広島大学生物生産部において、コアコースと3つのサブコースに分かれての体験科学講座を実施しました。各コースにおいて、女子高校生は広島大学の教員と支援員の大学院生や学部生と実習を行い、実習終了後の質問コーナーでは意見交換を行いました。

【当日の様子】

○コアコース「見つめてみよう、食べものの来た道」

私たちが口にする食べもの、あるいはその食材がどこで作られ、誰の手を介して、私たちにたどり着いたのかを知ることが困難になりつつある現代社会。

安くて美味しいものを食べたい私たちですが、「なぜ安いのか?」「美味しさとは何か?」を改めて問い合わせし、「食べもの」の本質を、人間、社会、環境、技術の様々な面から考えました。



○サブコース1「DNAの電気泳動法を体験！」

生物の研究において頻繁に用いられ、重要な操作として位置付けられているDNAのアガロースゲル電気泳動法を体験した。実際に実験を体験することによって、研究に興味を持つきっかけとしました。



○サブコース2「多彩・多才な海藻類を観察しよう」

ノリ、ワカメ、ヒジキなどの「海藻」は、日本人の食卓には欠かせない食材ですが、生き物としてはあまり知られていません。

そこで、海藻の様々な色や形、生態系での機能にも関係する光合成色素について学びました。



○サブコース3「人間動物関係学」ってどんな学問？」

人間は、家畜、ペット、野生動物など様々な動物と関わりながら暮らしています。

しかし、私たちの身の回りの動物との関係は必ずしも良好とは言えません。

一人一人の動物観が異なることもその原因のひとつであることから、「人間動物関係学」における動物観の科学的な測定方法を実際に体験するとともに大学農場の家畜にふれることで、私たちの動物観について考えました。



○質問コーナーにて

